

のうくうかん 農空間

第96号
発行所
福島県農林水産部
農村計画課

特集

帰還困難区域の農地海岸復旧について 「東日本大震災第57次災害査定が完了」

東日本大震災から早いもので15年が経過しようとしております。

津波で被災した海岸堤防や排水機場などの施設は、復旧がほぼ完了していますが、原子力災害により帰還困難区域に指定されている地域は、現在も立ち入りが制限され、津波により被災したままの状況が残されており、復旧復興が道半ばであります。

今年度、10月20日から22日にかけて帰還困難区域の※農地海岸3地区（双葉町の細谷海岸、大熊町の北沢海岸、熊川海岸）の災害査定を受け、海岸線約2.4kmの復旧計画が認められました。

東日本大震災による農地海岸の復旧は、震災初年の平成23年に相馬市、南相馬市、広野町の海岸から査定を受けて、復旧工事をスタートさせており、令和元年までに帰還困難区域を除く16海岸で復旧工事が完了しています。

海岸の復旧に当たっては、全国から派遣された支援職員にも尽力いただきながら工事を完成しており、共に多大な苦労と困難を乗り越えながら業務を進めてまいりました。今でも支援いただいた「福耕支援隊」の皆様には感謝に堪えない思いがあふれてまいります。

今回査定を受けた細谷、北沢、熊川の3海岸は、東京電力福島第一原子力発電所に隣接する崖海岸で、普段から高波により海岸線に近づけない



細谷海岸の状況

など、現場条件が非常に厳しい区間です。上段の写真は現在の細谷海岸の状況です。このまま放置すれば、海岸が徐々に侵食され続けるため、早急な対応が必要となっています。

現地の測量については、最新のUAV測量を導入し、消波工の縦横断測量を実施するなど、人が立ち入らなくても現地測量が出来る最新の技術を活用しています。



UAVを活用した測量の様子

今後、予算措置などの手続きを進め、双葉町、大熊町の安全・安心の確保、福島県土保全のため、早期の復旧に取り組みてまいります。



北沢海岸の護岸倒壊現場

※農地海岸：海岸保全区域（海岸のうち防護すべき海岸に係る区域として都道府県知事が指定した区域）のうち、土地改良事業及び農地の保全のために必要な事業として管理する海岸保全施設がある区域。

【農村基盤整備課】

わたしの地区を紹介します。

館沢・大町地区について

【地区概要】

○事業名：農地中間管理機構関連農地整備事業

館沢・大町地区

○工期：令和6年度～令和11年度（予定）

○主要工事：整地工A128.1ha

道路工L14、194m

用水路工L14、314m

排水路工L15、370m

暗渠排水工A119.3ha

【監督員】

県南農林事務所 佐竹 保洋

【地区紹介】

館沢・大町地区は西白河郡矢吹町に位置し、農地の形状は、未整備のため小区画・不整形であり、水路は用排水兼用土水路、道路が狭小（幅2m程度）のため、営農に大変苦慮している地域になります。

本地区の話し合いは、平成30年度頃から始まりました。矢吹町が事務局となり、工事内容や担い手農家の確保等について、何度も話し合いを重ね、ようやく、令和6年度に事業採択となり、今年度から工事に着工します。

担い手へのインタビュー

今回は、地区の担い手の一人である角田誠一郎さん（米農家）にお話を伺いました。

Q1 現在の営農で苦労されていることは何でしょうか？

当地区は、土水路や田越しでの水かけのため、用水管理に大変苦労している。

また、道路や水路が蛇行しているため、人力での草刈りを行っており、見通しも悪いので見回りに時間がかかっている。

Q2 ほ場整備では何を望みますか？

水管理の労力が軽減することを期待している。また、水路に製品を入れてもらえれば、用水不足解消にもつながると思っている。

Q3 ほ場整備を契機に取り組みたいことはありますか？

労力軽減となるよう乾田直播や、ドローンの導入などを考えていきたい。

Q4 ほ場整備後の耕作について展望はありますか？

息子に加え、今年から孫も一緒に耕作している。3世代で規模を拡大していきたい。

【県南農林事務所】



角田誠一郎さんとご子息



委員会での打合せの様子



館沢・大町地区空撮写真



監督員と地区関係者

県内からの便り

令和3年度にはほ場整備の権利者会議を開催してから4年の歳月が流れ、県中農林事務所では久しぶりに、同会議を迎えることとなりました。県中農林事務所では、今年度5地区、来年度4地区のほ場整備が完了予定で、農家の方々の権利確定に必要な換地処分に向けた手続きを進めているところです。

復興基盤総合整備事業 西向、地見城、永谷、山口地区、経営体育成基盤整備事業 森宿地区の5地区で、権利者会議を行うため、昨年度は情報収集として他事務所の権利者会議に参加し、見学＆お手伝いを兼ね経験をさせていただきました。

当管内では土地改良区ではなく、市町村がほ場整備の地元調整を担っている地区が半数以上を占めており、何気なく処理されていた事務手続きでも「あれ？」と思う点などが多数あり、その都度、換地用地チームが精査し対応してきました。

田村市西向地区では、会議に向け、昨年度から進めてきた市との調整に加え、ほ場整備役員の方々と、換地内容・日程調整・会議の進め方などを確認しながら、地区全員への事前説明会の実施を経て、去る11月10日に、権利者会議を無事開催することができました。

県中農林事務所では、年度末にかけて残り4地区の権利者会議開催に向け、引き続き多忙な日々が続きます。



西向地区権利者会議の様子

【県中農林事務所】

地域に根ざした水土里ネット

猪苗代町土地改良区

猪苗代町土地改良区の主な水源は裏磐梯の湖沼群に発し、一級河川長瀬川を介し頭首工の左右岸より取水されています。また、福島県内有数の豪雪地帯で、古くから良質米の産地として知られています。

受益面積2,601ha、組合員数1,034人である本土地改良区は、土田用水堰土地改良区、上山下堰土地改良区、長瀬川土地改良区、吾妻土地改良区の町内4土地改良区が昭和62年から着手された県営ほ場整備事業の推進、進捗に併せ平成5年10月に合併し「猪苗代町土地改良区」として設立し、現在に至っています。

本土地改良区の運営については、「組合員のための土地改良区」を信念に組合員が安心して農業経営に邁進出来ることを目標として、適切な土地改良施設の維持管理を行う一方で農家の負担軽減（経常賦課金を抑える）を図るため民間業者に発電施設の計画を打診してまいりました。その結果、平成26年と平成28年から2か所の小水力発電の運用が開始され、毎年一定の収入が見込まれています。

また、令和6年度からは、更なる地域との連携、持続可能な活動、広域的な補修、工事等による維持管理、営農推進と地域の農村環境保全に取り組むべく、多面的機能支払交付金事業の「猪苗代町広域活動組織」を設立し、町内における65活動組織のうち30組織、活動面積約900haが広域活動組織に加入し、農業水利施設の維持管理や畦畔の草刈りなど、営農活動を地域全域でサポートする体制が確立されました。また、猪苗代町広域活動組織の特色としては事務費とは別にそれぞれの活動組織の交付金から10%を集めその財源を基に突発的な工事への対応、広域的な工事を実施することでこれまで交付金が少なかった活動組織に於いても大規模な工事ができるようになりました。

最後になりますが、農業を取り巻く情勢はめまぐるしく変化しています。農業者の高齢化や減少に伴い、土地改良区の農業水利施設の保全管理にも多くの課題が増えています。農業者、農地が減少しても現状の農業水利施設の維持管理は必要です。本土地改良区はこれらの課題に取り組むため、これまで以上に農業者、地域住民、関係機関と協力し運営基盤の強化を図っていくことが使命であると考えております。

【会津農林事務所】



観音寺川



受益地と磐梯山

営農再開のあゆみ

太田地区

太田地区は、福島県浜通り北部の南相馬市原町区に位置し、二級河川太田川の北岸に位置する水田地帯です。本地区は、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、多くの農業者が避難生活を余儀なくされたことや、放射性物質による農地及び農業用施設の汚染により、地場産業である農業の基盤に大きな被害を受けました。

そこで、本事業では区画整理による農地の大区画化、汎用化と併せ、道路及び用排水路の整備により集団化を一体的に進めています。これにより農業経営の複合化や大規模化による、低コスト生産を目指すことで、地域農業の振興を図っています。

【地区概要】

- 事業名…農山村地域復興基盤総合整備事業 太田地区
- 工期…平成29年度～令和9年度
- 受益面積…区画整理工A1150.0ha

○担い手ヘインタビュー

本地区にて47.4ha営農予定の「農事組合法人あいアグリ太田」にインタビューしました。

Q1 営農の再開と法人の立ち上げの経緯は？

農業就業人口の減少や高齢化の課題があるなか、東日本大震災が発生し、地域農業はますます衰退の一途をたっています。

そのため、地域社会への貢献を大きな使命とし、通年型の農業に取り組む、雇用創出、持続可能な農業基盤を目指し、個人農家7人が集まり平成29年2月に設立しました。

Q2 事業内容を教えてください。

私たちは、伝統的な耕種農業と一年を通して安定的に生産が可能な通年型の施設園芸を組み合わせた「複合型農業」に取り組んでいます。

【内訳】

- 田…37.2ha
福、笑い・コシヒカリ・天のつば
- （一部環境配慮（有機・減農薬）型栽培）
- 畑…8.9ha
タマネギ・大豆・カボチャ・花木・ニンニク
- 施設園芸…1.3ha
キュウリ・トルコギキョウ・ストック
- ハイブリッドスターチス・カンパニユラ

Q3 今後、取り組みたいことや展望はありますか？

令和5年3月にJAS有機認証、令和6年3月にJGAP認証を取得したので、より安全かつ効率的に持続可能な営農を行ってまいります。

また、農業を営むだけでなく、地域社会の一員として未来を担う子どもたちへの農育活動や、持続可能な農業の実現に向けた様々な取り組みを行ってまいります。

【相双農林事務所】



（左から）石井さん、中山代表、大和田副代表



アイガモロボットによる除草作業



地元小学校と協働での自然栽培米の栽培体験

福耕支援隊の声

東日本大震災から15年目となり、平成23年度から現在までに延べ1,877人、北は北海道から南は沖縄県まで31道府県からご支援をいただきながら、福島県だけの力では決して為し得ない規模の復興事業を推し進めています。

このコーナーでは、当時福耕支援隊として太田地区の整備に尽力された山田直明さんの思いを取り上げます。

【滋賀県 山田直明（やまだなおあき）さん】



当時の山田さん



現在の山田さん

■太田地区に対する思い

太田地区については、地区の全域で営農再開が進んでいるとお聞きし、その復興事業に微力ながら携わらせて頂いたことを嬉しく思っております。私は、福耕支援隊として、令和4年度は災害復旧事業を担当し、令和5年度はこの太田地区の担当として、面整備やパイプライン工事等に携わらせていただきました。この地区は多くの福耕支援隊の皆様が担当されておられ、恐縮ですが当時を振り返らせて頂きます。

■太田地区で苦労したこと

令和5年度は、面整備が概ね完成し、営農も再開しつつあり、パイプライン工事を実施するところでした。当時は、渇水もあり、地区末端のほ場に水が十分に行き届かず、水の確保に非常に苦労されており、そのほ場で稲が枯れていたことが印象に残っています。

私自身、工事など十分な経験がなく、地区の様々な課題に対し上手く応えられず、地元の皆様に叱咤激励をいただきながら従事しておりました。そのような中、着実に営農再開に向かって、様々な取り組みをされている地区の姿を見させていただき、何とか力になりたいと福島県職員の皆様のご助力をいただきながら仕事をしていた記憶があります。

■終わりに

自分が携わった地区で営農再開が順調に進んでいるというところで、微力ながら、その一助になれたことを誇りに感じております。今後、復興が着実に進んでいる福島県に訪れたいと思っています。